

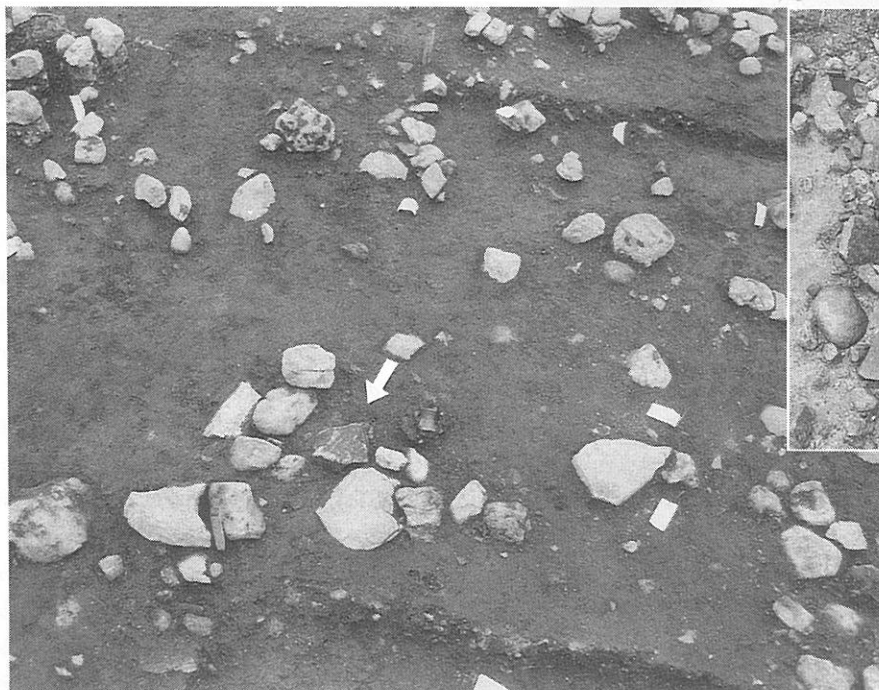
長野県埋蔵文化財ニュース

No. 22

1987.10.15

(財)長野県埋蔵文化財センター

長野調査事務所
〒388 長野市篠ノ井布施高田字佃963-4
TEL 0262-93-5926



↑
石棺状遺構

←工房址
平石に囲まれ
玉砥石(←印)
がある。

県下初の縄文時代後・晩期「ヒスイ」工房址を伴う

大町市一ツ津遺跡

大町市教育委員会 島田 哲男

地溝湖である木崎湖の北端東側に、湖に面した小扇状地がある。本遺跡はこの扇状地の扇端部分にあり、大町市大字平字海の口に属する。扇状地一帯は縄文時代早期～晩期、平安時代～中世にいたる遺跡で、自然景観にも恵まれている。

農業基盤整備に関連した緊急発掘調査で、昭和62年5月～9月初旬まで、湖岸から約80m離れた地点一帯の約1000㎡を調査した。表土(30～50cm)下に黒色土層の包含層が60cm前後あり、縄文晩期から中期後半まで継続的な層序が認められた。このうちの後期後半から晩期の層位中に、ヒスイ・滑石等の玉砥石や原石・剥片・未成品と共に製品(玉)が多数出土した。また、並んだ玉砥石と平石の周囲に、ヒスイのハンマーや剥片

が散在するなど工房址らしい部分もあった(写真)。

この他縄文期の住居址12(中期5、後期5、晩期2)や石棺状遺構(写真)、配石、柱痕がある。確認調査の結果、湖畔まで縄文後・晩期の木材や木の実・骨等を含む低湿地性遺跡と判明したが、この部分は未破壊部分なので保存されることになった。

本遺跡はヒスイ工房址関係遺跡としては、県下では最初の例となったが、原産地の姫川に近く、今後新潟県下の同種遺跡との比較研究が必要となろう。また、その遺物出土量や遺跡の拡がりからみて、大北地方における縄文時代以降の拠点的な遺跡であり、かつ低湿地遺跡も含むことが判明し、今後その在り方をめぐり、種々の課題を提供したといえよう。

埋蔵文化財施設紹介 (18)



南佐久郡川上村 おおみやま 大深山考古館

〔概要〕川上村は、山国信州の最東南端にあり、埼玉・群馬・山梨3県に接し、日本一の長流信濃川の上流である千曲川の水源地でもある。西にはハケ岳、南東には金峰山・国師岳・甲武信ヶ岳・十文字峠など秩父山系が連っている。ハケ岳東麓一帯の野辺山高原を含めて、高原野菜栽培の先進地として全国的にも有名である。

村のほぼ中央部にある大深山集落の北西天狗山の南斜面、標高約1300m一帯に大深山遺跡がある。

この遺跡は、昭和28年の試掘以来、34～37年まで8回にわたる本調査が八幡一郎先生を指導者として行われた。その結果、縄文時代中期住居址51軒や集石遺構と共に多数の遺物が出土した。今までハケ岳西南麓の諏訪地方に集中した観のあった縄文中期の大遺跡が、こうしたハケ岳東麓まで広がり、かつ現在でも日本で最も高所にある集落遺跡として、全国的に注目されるようになった。千曲川を挟んだ対岸には日本先土器時代研究史上に有名な馬場平遺跡があり、付近の野辺山高原は矢出川・柏垂など該期遺跡の宝庫ともいえる。



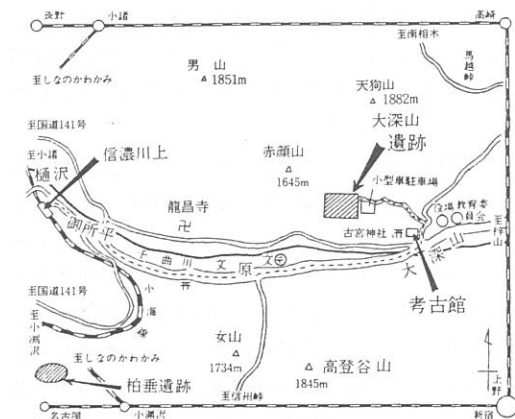
第15号住居址出土香炉形土器

この資料館は、歴大な大深山遺跡出土品の保存・公開を目的に調査中より計画され、昭和42年11月30日に開館の運びとなった。なお、見学者の便を計るため、遺跡入口に当る大深山集落内に建設された。

鉄筋コンクリート平家建。本館97.20㎡、附属建物45.36㎡の計142.56㎡。総工費750万円（国195万円、県58万5千円、起債200万円、寄付金50万円、村費246万5千円）

〔主たる展示品〕大深山遺跡からの出土品は、総数で数万点に及ぶが、その中から本遺跡を代表する縄文時代中期の各種遺物を展示してある。香炉形土器（写真）・形態を異にする数ケの釣手土器、深鉢、浅鉢などの完形品約50点、復元された完形に近い約120点の土器群は、諏訪の尖石、井戸尻遺跡などとはまた多少趣を異にする雰囲気を示し、地域的な在り方がよくわかる。縄文中期を象徴する大形石棒をはじめ、各種の石器類も約300点展示し、写真、パネル等による発掘調査当時の状況や遺跡の概況が理解できるよう工夫してある。

大深山遺跡調査の大きな特色は、当初から地域住民の“手づくり”方式であった点である。観光協会を発足させそれを保存会方式に発展させ、発掘調査はもとより、遺物整理や遺跡整備保存に積極的に取り組み、41年には国史跡の指定を受け、42年には考古館建設をいち早く実現した。老人クラブを中心とした地域住民の遺跡の保存、整備も恒例となり、県教育委員会から教育功労賞、全国市町村遺跡保存協会からも表彰をうけている。遺跡現場には数軒の復元家屋や石組の炉址などを保存し、往時を偲ぶにふさわしい史跡公園的環境づくりも行っている。



所在地：南佐久郡川上村大深山（0267-97-3059）

交通：小海線信濃川上駅よりバス10分（館より遺跡まで自動車道あり。徒歩で約20分）

開館：3月1日～11月30日 8:30～17:00

12月1日～2月28日 9:00～16:00

休館日：毎週月曜日、12月29日から1月3日まで

入館料：一般 170円 小人 110円、団体20人以上の場合、一般 110円、小人 80円



岡谷市における埋蔵文化財保護行政の現状と課題

岡谷市教育委員会

1) 昭和40・50年代の埋蔵文化財保護

諏訪地域の人々の歴史と文化に対する関心の高さはしばしば語られることであるが、岡谷市でも、多くの先学によって、古くから考古学的調査がすすめられていたことは衆知のことである。こうしたことが現在までも伝統としてあり、埋蔵文化財の保護に対する行政や市民の関心は非常に高い。

行政が本格的に取り組むようになったのは昭和41・42年の海戸遺跡の市民発掘を契機としている。44年4月には、美術考古館の建設を期に専門職員1名(兼務)を充てて埋蔵文化財の保護をスタートさせている。

昭和44年～55年、橋原遺跡調査の終るまでの時期は、公共事業は事前に把握して緊急調査を実施できたが、個人住宅の建設や民間の土木工事は、対応できる体制と予算がなく完全にチェックすることはできなかった。調査件数は年に2～3件、規模も小さくて、調査期間も1週間から長くて2ヶ月程度であったため、原因者の協力を得て、調査は夏休みや春休みに行うことが多く、主力は高・大学生や中学生、一般市民であった。毎日が考古学教室を開いているような雰囲気であり、後の遺物整理もクラブ活動やボランティアで行われるなど、社会教育の面では活発な保護活動の行われた時期であった。

2) 埋蔵文化財保護体制の現状

昭和54～56年の橋原・樋沢・上向遺跡の大規模な調査を契機に、専門職員は3人に増員され(ただし2名は博物館と兼務)、土木工事、農地転用等の開発行為はすべて遺跡分布図と照合のうえ、教育委員会にまわされて保護処置についてチェックされるようになった。

目下のところ教育委員会では、遺跡地内の開発行為は、工事の規模とその地点の現況を検討して、まず地下の遺構等と破壊の及ぶ恐れのある場合は試掘調査を実施して、遺物包含層の有無、遺構の有無を探り、状況によってはトレンチを多数数設定して確認調査を行い、さらに遺構が検出されれば緊急調査に切り換えて記録保存をしている。

この時、試掘で遺物・遺構の検出がなければ調査は終りであり、あっても過去に盛土造成がなされていて基礎工事等による破壊がないと判断される場合は、確

認調査で終らせていることもある。

昭和60年度の農地転用に伴う試掘調査は18件、このうち緊急調査を行った例は6件である。ここ数年この数字に大きな変動はないが、62年は7月までにすでに4件の緊急調査が行われている。この他、61・62年度は組合施行の開発事業があって、長期間の発掘調査を実施している。

こうした調査の費用は、農地転用に伴うものについては概算で「試掘確認調査費」「緊急発掘調査費」を当初予算に計上し、大型事業はこれと別に、事業ごとに当初予算に計上している。補助事業、原因者負担の事業は、年1件程度である。

なお、41年度以降これまで、中央道関係調査を除くとすべて調査は市教育委員会が主体者であり、委託調査のケースは1例もない。調査団の編成は調査規模に応じて必要な場合は設けている。

3) 調査成果の活用と課題

現在まで、岡谷市では大型の農業基盤整備事業等の大規模な発掘調査が比較的少ないことが他市町村と、やや事情が異なる点であろうか。調査の増加と出土品整理をすすめるため、57年以降、調査補助員が漸増され、61年度からは3人になっている。埋蔵文化財関係の業務は社会教育係で担当しているが、59年度から独立建物に整理作業場を設けて作業の進捗を図っている。実質的には、この調査補助員が専従していることが、保護体制の充実となったと言える。

昭和41年度以降、中央道関係遺跡の調査を除くと、74件の緊急調査と92件の試掘確認調査が行われてきて



縄文中期の大集落址となった岡谷市市上寺遺跡の発掘

いる。これらの出土品は、現在整理事業が進行中であり、梨久保、樋沢の各報告書が発刊されているが、なお、未整理のまま山積されている出土品もかなり多いのが実情である。これまで、市当局そして市民の理解によって、他の市町村に取じない木目細かな埋蔵文化財の保護が行われてきたが、これからの課題の一つとして、もっと積極的に埋蔵文化財の保護に市民の理解と協力が得られるように、つまり、郷土の歴史を自らの手で明らかにして、地域建設に役立てていく市民意識を育てていくということがある。それには発掘調査はもとより、出土品等の調査成果の活用をすすめていかななくてはならないであろう。

これについては、59年以来、公民館学習グループと

して、ボランティアによる土器復元を行う「土師の会」が活動をはじめた（詳細は報告書「梨久保」参照）。会員によって復元された土器を主体に地区公民館と共催して出土品展が開催され、この他に講演会、親子発掘教室が企画され実施されている。

また、市内の史跡公園や史跡散歩道コースの核となるように、梨久保遺跡の国指定と用地買上げも、地元区の全面的支援を得てすすめられている。

このような活動を通して、市民の理解と協力を得つつ、国道20号線バイパス、西山開発、大型宅地開発事業等、近々に予定されている大規模調査や史跡公園整備が、開発と保護の調和の上に進展されることが、今後の課題となろう。

昭和62年度長野県埋蔵文化財センター発掘調査の概要

1 関越自動車道上越線関係

上越線建設に係る埋蔵文化財の発掘調査は、昨年10月、佐久市岩村田地区の栗毛坂遺跡の調査から開始した。本年度は、岩村田地区2遺跡、平根地区4遺跡、香坂東地地区5遺跡の計11遺跡、調査面積合計およそ106,000㎡を計画している。

本年度の発掘調査は、4月6日から岩村田地区の栗毛坂遺跡、ひきつづいて、4月17日には同地区西赤座遺跡の発掘調査を開始した。上記2遺跡については一部未調査地区を残しているが、8月末にはほぼ調査を終了した。8月17日以降は、調査の中心が香坂東地地区に移り、現在、西祢ぶた、東祢ぶた、西林、干草場、城の口の各遺跡の調査を進めている。各遺跡の調査の概要はつぎのとおりである。

1) 栗毛坂遺跡

湯川右岸の台地上に広がる広大な遺跡であり、



佐久市栗毛坂遺跡A地区の集石群

上越線は、湯川から仙緑湖までのおよそ1,000mにわたって遺跡の南端部を横断している。上越路線内で、の遺構の集中する地区は、大きく4地点に分けることができる。湯川右岸低位段丘部（A地区）は、地形、遺跡立地、検出された遺構・遺物等からみても、台地上の他の3地点とは大きく異なっている。台地上の3地点は共に、奈良・平安時代の遺構が中心で、わずかに中世的な遺構が検出されている。3地点で検出された遺構は、竪穴住居址が72（奈良・平安64、中世8）、掘立柱建物址86（奈良・平安74、中世12）、井戸址、土壇、溝、畠址などである。一方、A地区では、縄文時代（早・前・後期）・古墳～平安時代の遺構・遺物が検出され、中でも縄文時代早期末の石器製作に係ったと想定される集石群（写真）は注目される。主な遺構として、竪穴住居址11（古墳6、奈良・平安5）、掘立柱建物址1、集石、土壇、溝などがある。

2) 西赤座遺跡

仙緑湖の東側、栗毛坂遺跡と同様な地形に立地する遺跡である。竪穴住居址など居住域を思わせる遺構は検出されなかったが、土壇、溝等とともに近代の耕地整理の跡が検出された。

3) 香坂東地地区の遺跡

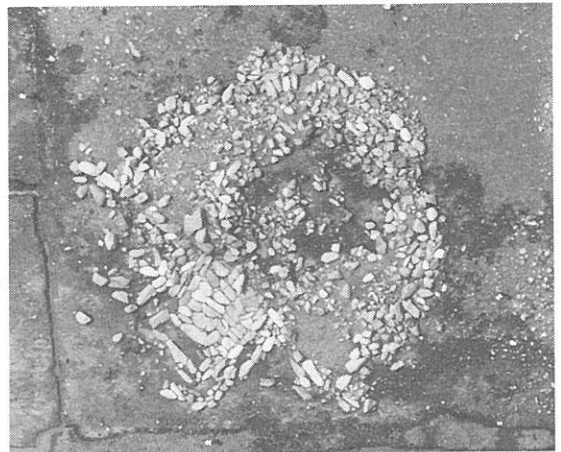
この遺跡は、共に山麓南向斜面の凹地の平坦部に位置し、規模は大きくない。調査は始まったばかりであるが、西祢ぶた遺跡では平安時代の竪穴住居址、東祢ぶた遺跡では縄文時代後期の敷石住居址、平安時代の竪穴住居址などが検出されている。

2 中央自動車道長野線関係

1) 北村遺跡

北村遺跡は、東筑摩郡明科町光地籍に所在し、東部山地より発する、小倉沢と奥沢とに挟まれた犀川の右岸段丘上に位置する。今回中央道長野線が本遺跡のほぼ中央部を横断するため、21,000㎡を対象に4月6日から発掘調査が開始された。8月末日現在、中世以降の掘立柱建物址2棟、奈良・平安時代の堅穴住居址9軒・掘立柱建物址28棟、縄文時代後期の敷石住居址4軒・集石・列石などが検出されている。

本遺跡は、過去数回にわたる分布調査等の結果、土師器・須恵器の出土が報告されており、古代の集落遺跡という性格づけがなされてきた。したがって国道19号線の西側地区で、地表下2.5mから縄文時代の遺構が検出されたことは予想を覆す大きな成果といってよい。しかも4軒の敷石住居址のうち、ほぼ原形の柄鏡形をとどめる1軒(写真)は、主体部の直径約5m・長軸約8mと、県下では小諸市の久保田遺跡で確認された第13号住居址に次ぐ規模をもつ。本址では主体部外周に礫を巡らし、礫の内縁は周堤として約1mの幅をもたせたのち、わずかに堅穴状の凹みをもつ。この周堤上に径20cm前後の柱穴がほぼ等間隔で検出されている。敷石は柄部のみで主体部床面上にはみられない。



明科町北村遺跡の柄鏡形敷石住居址

床面のほぼ中央には、堀ノ内式期鉢形土器胴下半を埋設使用した炉址が確認されている。本址については、明科町による移設復元の準備が進められている。

ところで、本遺跡は堆積地のため調査前段階において、膨大(約35,000㎡)な排土の処理をはじめ、営農上不可欠な水路の確保、防災のための大規模な土留工事、および危険地区立入防止柵の設置等々、対処すべき問題が山積していた。こうした状況は今後予想される危険地帯や難場地区の発掘調査には、極めて貴重な体験といえよう。

2) 東筑摩郡麻績村野口遺跡

野口遺跡の調査は7月初旬から着手した。調査区は野口集落背後の北に傾斜した扇状地で、標高650m前後の地点である。調査区中央を尾根が分断するため、東地区・西地区に分かれる。

まず東地区の一部を確認調査したが、ごく少量の遺物が出土したにすぎず、一時中断して7月下旬には西地区の本調査にかかった。この地区は遺物包含層がきわめて浅いため予想以上に攪乱されていたが、中央の沢の東側で堅穴住居址2軒、火葬墓1基、鍛冶関係遺構1基が検出された。いずれも平安時代中頃の遺構と思われ、筑北地方初の古代住居址の調査となった。

このうち、2号住居址は1辺4m弱、深さ約30cmの方形で、北カマドの前から西壁・南壁に周溝がめぐっている。この周溝はカマド前に蓋石と思われる平石が残り、埋土には焼土や炭が多く混じり一部には炭化材が認められた。出土遺物には土師器、黒色土器、灰釉陶器がある。調査後、この周溝はオンドルのような設備と確認され、カマドと分離した型のオンドルをもつ堅穴住居址としては、全国初めての発見例となった。また、火葬墓は攪乱された形跡が認められるものの、

須恵器(長頸瓶)を骨蔵器とし、黒色土器を伴っている。平安時代以外の遺物としては、縄文時代後期初頭土器、石鏃、磨石、内耳土器、插鉢、青磁、近世陶器、羽口などが少量出土している。

現在、東地区の残りの部分の確認を終え、平安時代と思われる炭化物層を伴う遺構1箇所を調査中で、10月上旬には終了予定である。今後、古代山村の生活のありさまを明らかにするとともに、オンドル付の堅穴住居址の構造を復元し、それが麻績の地に伝わった背景を考えていきたい。



麻績村野口遺跡のオンドル様施設をもつ第2号住居址

昭和62年度長野県下博物館等における展覧会・講演会等について

- ◎展覧会・展示会
○講演会
●講習会等

市 町 村	内 容
御 代 田 町	◎「御代田町古代展」 町福祉センター 62・4・4～5
上 田 市	◎「古代人の食生活展」 市立信濃国分寺資料館 62・7・25～8・30 ○「古代人の食生活」 千葉市教育委員会後藤和民氏 同上 62・8・23 ●「春・夏休み考古学教室」 中沢正一氏ほか 同上 62・7・30～8・1 63・3・20～22
丸 子 町	◎「漆器の美」 町郷土博物館 62・10・22～12・15 「灯明具の歴史」 同上 未定 ○「古陶磁講演会4ー現代の陶磁、五島美術館竹内順一氏 丸子町公民館 62・6・15
箕 輪 町	○「箕輪町の古墳時代」 柴登己夫氏 町公民館 62・7・4、7・18 冬期間に町誌を読む会が中心となり、「原始・古代」・「東山道関係」の講習会を計画
原 村	◎「臥竜遺跡土器展」 村中央公民館 61・11月より一年間 ●「原村の遺跡」 平出一治氏 同上 63・1・8（原村高齢者学級講座）
上 郷 町	◎「町の埋蔵文化財」 町歴史民俗資料館 62・8・2 ○「上郷町の遺跡と原始人の生活」 今村善興氏 町民会館 62・7・23
喬 木 村	○「先史・古代の喬木」 佐藤魁信氏 村内農協保養センター 62・7・22
松 本 市	◎「速報展 '87」 市中山考古博物館 62・4・27～6・21 「特別展ー中信地方の旧石器ー松本平のあけぼの」 同上 7・19～9・20 「収蔵品展ー旧中山考古館の縄文時代」 同上 10・8～11・29 ○シンポジウム「埴原牧の顕彰と保存」 中島経夫他 中山公民館 62・11・18 ●「石器づくり」 森山公一氏 中山考古博物館 62・8・1 同 関沢聡 11・14 市民考古学教室Ⅱー今蘇える松本平古代史の謎 宮下健司・樋口昇一・桐原健氏ほか 同上及びあがたの森市民会館 62・8・8～10・17、縄文食生活の体験学習（どんぐりをたべる）中山考古博物館 10・31から3回
塩 尻 市	◎「中信平の弥生文化展」 平出遺跡考古博物館 62・9・23～10・25 ●「ふるさとしおじり大学ー今よみがえる古代のロマン」 総合文化センター 樋口昇一・桐原健・岩垂俊雄氏ほか 62・5・22～63・2・16（10回）
豊 科 町	○「古代のやきものー須恵器生産の諸課題」 豊科町公民館 京都市埋文研究所田辺昭三氏 62・8・12 ●「あずみ野考古学学習会」 同上、田辺昭三、小林三郎、吉田恵二氏ほか 62・8・8～28
穂 高 町	◎「穂高町古墳群とその人々」 鐘の鳴る丘集会場 62・10・31～11・8
大 町 市	○「郷土史セミナー」 町公民館他2ヶ所 市文化財審議委員ほか 7月～12月
長 野 市	◎「イネを伝えた人々ーその生活と墓制」 市立博物館 62・7・19～8・30 ○「弥生文化の波及と定着」 同上、神村透氏 62・8・9 ●考古学講座「ドングリ食について」 名古屋大学助教授渡辺誠氏 62・7・26 なお秋には「善光寺瓦」（山口純一副館長）、冬に「弥生時代」（山口明学芸員）を予定
須 坂 市	◎「古代展」 市立博物館 62・10・31～11・29（なお11月中に講演会も予定） ●「史跡めぐり」 小林宇彦氏 62・6・23（高齢者学級）
中 野 市	○「高梨氏と高梨氏城跡発掘状況」 東町公会堂 檀原長則氏 62・9・9
飯 山 市	◎「昭和62年度遺跡発掘展」 市公民館 10月予定
小 布 施 町	●「土器復元講習会」 歴史民俗資料館 金井汲次氏 62・11・1 「弥生式土器について」 町公民館 金井汲次氏 12月予定
信 濃 町	◎「信州の象化石」 町立野尻湖博物館 62・7・1～9・29 ○「信州の象化石」 同上 大阪市立博物館樽野博幸氏 62・8・23 ●「石器づくり」 同上 中村由克氏 62・8・1～2

長野県内報告書紹介（5）

◆長岡新田関係遺跡ー箕輪ダム建設に伴う確認調査報告書 箕輪町教委（61ー3）（B5 46+15）〈末広Aー切り合う平安住6、縄文前期土壌4、落合Aー平安住2が、また末広B地点以下4地点の確認調査の結果について報告している。〉

◆浅川扇状地遺跡群ー住宅地開発関連公共施設促進事業、主要地方道長野荒瀬原線建設用地内B、C、D地点、通称「牟礼バイパスBーD地点」の緊急発掘調査報告書 長野市教委・長野市遺跡調査会（61ー3）（B5 183+63

+1）〈B地点ー古墳時代中後期住11、平安住12、C地点ー平安住2、軒丸瓦を含む溝、人骨を残す土壌墓、D地点ー弥生中期住4、古墳前期住2、平安住11の遺構があり、調査のまとめで、古墳中期の須恵器、平安の搬入土器、善光寺瓦について論じている。〉

◆南条柵田遺跡Ⅰー上郷町土地改良事業に伴う緊急調査報告書 上郷町教委（61ー3）（B5 31+16+カラー1）〈天竜川に面した沖積地、水田、水路、木柵杭列、溝状跡が発見され、弥生中期ー平安の土器類や木杭・板材など木製品の出土が多い。〉

◆池畑・西御堂ー県道香坂中込線バイパス改良事業に伴

う緊急発掘調査報告書 佐久市教委・佐久埋蔵文化財調査センター (61-3) (B5 61+16) 〈池畑-弥生末~古墳初住2、牛馬骨を伴う奈良末・平安初の土杭1、時期不詳溝3。西御堂-土杭3。〉

◆上の原遺跡群Ⅱ-県営畑地帯総合土地改良事業に伴う2年次分の緊急発掘調査報告書 東部町教委・東信土地改良事務所 (61-3) (B5 24+81) 〈上の原遺跡群下利根川遺跡A地点で土壇99、ピット54及び縄文前期~後期、平安~近代の遺物が発見される。〉

◆太鼓岩遺跡・古免南遺跡・原山窯址-浅間テクノポリス構想にもとづく「工業・住宅団地」造成工事に伴う緊急発掘調査報告書 丸子町教委 (60-12) (B5 41+12) 〈太鼓岩-平安住1、土壇1、原山窯址-8世紀後半~9世紀初の半地下式登窯の一部を調査。〉

◆創置の信濃国府跡推定地確認調査概報Ⅳ-国庫補助事業第4次確認調査の報告書 上田市教委 (61-3) (B5 28+5) 〈国府跡関係と条里水田跡の関係を染屋台小字西ノ平で層位面からおさえようとした。〉

◆五反田遺跡-手塚地区内県営圃場整備事業に伴う五反田・堰口1-・西紺屋村・金井・滝沢遺跡の緊急発掘調査報告書 上田市教委・東信土地改良事務所 (61-3) (B5 64+20) 〈五反田-縄文前期末の土壇とピット若干。堰口1-A地点-縄文前期末住1、平安掘立柱建物址2、土壇。B地点-平安掘立柱建物址2、溝・土壇。C地点-弥生~古墳堅穴状遺構1、平安土壇数基など。D地点-平安住3、弥生後期・古墳・平安の土壇14など。西紺屋、滝沢、金井遺跡では遺構確認なし。〉

◆殿村遺跡-県営圃場整備事業東筑摩群山形村竹田地区埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 県松本地方事務所、山形村教委 (村発掘報告書6) (62-3) (A4 233+90) 〈縄文中期29、平安13軒の住居址のほか、弥生の方形周溝墓1、古墳1基など調査。中信地方該期報告書として基本的役割を果たすものといえる〉

◆長野県史跡-土口将軍塚古墳-重要遺跡確認緊急調査 長野市・更埴市両教委 (62-3) (A4 115+31 別図2) 〈森将軍塚などと共に著名な前方後円墳の確認調査報告書。墳丘・埋葬施設、出土遺物に新知見を加えるなどその成果は多い。数少ない本格的な報告書〉

◆大井城跡(黒岩城跡) 佐久市教委 (61-3) (A4 353+102) 〈中世城跡を中心とした各種遺構・遺物のほか、弥生~古墳時代にも及ぶ詳細な報告で、県下では類例の少ない本格的な城跡調査報告書〉

◆宿上屋敷・下川原・光明寺 佐久市教委・佐久埋蔵文化財調査センター (センター調査報告書5) (62-3) (B5 80+20) 〈共に幅10mの道路用地内調査のため、遺構など

全面調査はできなかった。宿上屋敷では古墳~平安時代の堅穴住居址6軒、うち当地方では類例の少なかった古墳時代前期住居址出土土器に検討を加えている。他二遺跡は中世中心の堅穴状遺構や土師質土器などに焦点をあてて成果を収録している〉

◆淡淵・屋敷前・西片ヶ丘・曲尾Ⅲ・曲尾Ⅰ-同上(センター報告書6) (62-3) (B5 81+24) 〈佐久市東地区の県・市道改良事業に伴う道路幅のみの調査のために5遺跡全体でも遺構などは少ない。西片ヶ丘での敷石住居址、曲尾Ⅲの平安期住居址などがある〉

◆小海町遺跡詳細分布調査報告書 小海町教委 (62-3) (B5 100+付図1) 〈町内70ヶ所の詳細分布報告書〉

◆安源寺Ⅲ-中野市安源寺遺跡発掘調査報告 中野市教委 (62-3) (B5 81+11) 〈県営畑総による調査のため幅70、深さ80cmのトレンチによる確認調査のみであったが、縄文中期、弥生後期~古墳前期に属する良好な資料を出土し、特に後者に注目した報告〉

◆森将軍塚古墳-保存整備事業第6年次発掘調査概報、更埴市教委 (62-3) (A4 38+17) 〈墳丘や周辺古墳、小形埋葬施設などの調査や、設計企画から本墳に対する小論などが収録されている〉

◆更埴市倉科地区・八幡地区工業団地計画地域発掘調査報告書 更埴市教委・同市遺跡調査会 (62-3) (B5 9+4) 〈縄文中期、弥生後期遺物を確認する〉

◆屋代遺跡群北中原遺跡-市営住宅屋代団地建設に伴う発掘調査報告書 同上 (B5 10+6) 〈井戸址・土壇のほか水田面と3つの畦畔が検出された〉

◆屋代遺跡群馬口遺跡Ⅲ-屋代高校体育館等建設に伴う発掘調査 同上 (B5 34+19) 〈奈良-平安住居址42軒(6期細分)と水田址検出のためのプラント・オーバー分析についても収録してある〉

◆栗佐遺跡群五輪堂遺跡Ⅳ-屋代南高特別教室棟建設に伴う発掘調査報告書 同上 (B5 18+18) 〈住居址33軒(古墳・奈良各1・他は平安)を確認。特に大形住居に石列を伴う例。同一文字(「豊□□」)が書かれた墨書土師器10枚が重なって出土するなど、6次にわたり127軒の住居址を既出した一端を示している〉

◆長野県文化財目録 長野県教委 (62-3) (B5 67)

◆長野県文化財分布図 同上 (全紙4つ折り)

◆辻沢南遺跡-馬住ヶ原工業団地及び馬住ヶ原公園造成事業に先立つ試掘調査(市発掘調査報告22集) 駒ヶ根市土地開発公社・同市教委 (61-3) (B5 19+11) 〈試掘調査の結果、縄文草創期から弥生にいたる各期の遺物が出土し、主に縄文中~後期大集落址であることが確認された〉

◆高見原遺跡—詳細分布調査報告書（市発掘調査報告21集） 同上（B5 17+7）〈高見原、横山などの著名な遺跡の範囲やその内容が確認された〉

◆岩清水遺跡—緊急発掘調査報告書（町文化財調査報告書16集） 東信土地改良事務所・望月町教委（61-3）（B5 100+22）〈縄文早期押型文の良好な資料や古墳・平安時代20数軒の住居址とその出土遺物には見るべきものが多い〉

◆福島古窯跡—発掘調査概報 木曽福島町教委（61-11）（B5 18+8）〈江戸時代末期の連房式登り窯の類例少ない調査で、窯構造は破壊されていたが遺物なども出土し該期窯址解明の好例となろう〉

◆栗毛坂遺跡群—芝間（佐久埋文調査センター報告書

3集） 佐久市教委・佐久埋文調査センター（61-11）（B5 49+15）〈巾5mのみの市道拡幅であったが古墳1・平安3の住居址、中世堅穴状遺構などを検出し、栗毛坂遺跡群内の位置づけを解明する手がかりをえた〉

◆栗屋元遺跡—信越郵便局飯田2号宿舍建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 郵政省信越郵政局・上郷町教委（61-10）（B5 40+15）〈奈良時代の住居址1軒や各時代の溝状遺構、70以上の土壇などを検出〉

◆細野原—開拓地整備事業に伴う埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書 下伊那地方事務所耕地課・下条村教委（61-12）（B5 24+5）〈縄文中期住1、土壇2と周辺の分布調査の結果を収録〉

埋文センター日記抄(昭和62年4月～9月)

〈(長)は長野、(佐)は佐久、(松)は松塩筑調査事務所〉
6月24日 埼玉県埋文事業団高橋一夫課長、中村倉司氏佐久(24日)・松塩筑両調査事務所視察
" 26日 3事務所調査部長会（松）
" 31日 富山大学秋山進午教授他学生15名来所（松）
7月7日 北村遺跡調査のため公団・高速道事務所と調整会議（松）
" 8日 野口遺跡発掘調査開始（長）
" 10日 佐久地区調査のため公団・高速道・文化課との打合せ会議（佐）
" 13日 県監査委員、栗毛坂遺跡視察（佐）
" 14日 毛涯副知事、関越自動車道上越線関連事業視察のため、長野・佐久両事務所訪問 栗毛坂遺跡見学
" 15日 信州大学酒井潤一助教授栗毛坂遺跡A地区の地質学的調査・指導（佐）
" 17日 宮崎大学藤原宏志助教授来所（長）
" 20日 県財政課・県教委総務課栗毛坂遺跡視察（佐）
" 21日 東信地区建設事務所等所長会栗毛坂遺跡視察（佐）
" 27日 毛涯副知事中央自動車道長野線関連事業視察のため、野口・北村両遺跡を見学（長、松）
" 28日 東信地区農協関係役員、栗毛坂遺跡見学（佐）
8月2日 栗毛坂遺跡現地説明会 約200名参加（佐）
" 7日 群馬県埋文事業団岩崎泰一氏他8名来所（松）
" 9日 北村遺跡現地説明会 約300名参加（松）
" 17日 佐久市東地区東称ぶた遺跡調査開始（佐）
" 20日 愛知県埋文センター・青山光一氏他1名来所（松）
" 21日 佐久地区調査のため公団・高速道・文化課と打合せ会議（佐）(27日にも実施)

" 24日 長野県遺跡調査指導委員会 松本市で開催 25日は豊科町窯址及び北村遺跡を視察指導（松）
" 25日 北村遺跡敷石住居址の移設で町・県で協議（松）
" 28日 佐久調査事務所増築安全祈願式（佐）
明治大学小林三郎教授他学生10名来所（松）
9月1日 佐久市香坂東地西林遺跡調査開始 同千草場・城の口遺跡も7日から開始（佐）
" 2日 「塩尻1」報告書編集会議（松）
" 3日 群馬県埋文事業団三浦茂三郎氏他5名来所（松）
" 7日 野口遺跡現地説明会 約120名参加（長）
" 9日 県教委義務・高校教育課課長・管理係長ら三事務所と各現場を視察見学（10日まで）
" 10日 香坂東地西林遺跡調査終了（佐）、全国埋文協会の「日本列島発掘展」関東・中部ブロック会議東京で開く。1名出席（長）
" 11日 中央道長野線関係事業につき松塩筑・長野両事務所合同幹部会議（長野）
" 14日 北村遺跡調査につき公団・高速道と調整会議（松）
" 17日 全国埋文協連絡協議会研修会大阪で開かる 2名出席（18日まで）（松）
栗毛坂遺跡一部残件を残して調査終了（佐）
" 21日 平根地区西大久保遺跡調査開始、28日から同丸山古墳群へも（佐）
" 22日 村沢牧参議院建設委員長一行北村遺跡視察（松）
" 30日 文化課と3事務所合同幹部会議（長）

訂正とおわび：本誌20号1頁の滝釜2号墳出土土器実測図の左下が左右反対となりました。また21号3頁上段のセンター組織一覧の松塩筑事務所名簿中の最下段に「調査員 百瀬陽三」を挿入して下さい。